

まちづくりの目的と基本的な考え方

大阪駅北地区では、「世界に誇るゲートウェイづくり」、「賑わいとふれあいのまちづくり」、「知的創造活動の拠点(ナレッジ・キャピタル)づくり」、「公民連携のまちづくり」、「水と緑あふれる環境づくり」をまちづくりの5つの柱としている。

既に先行開発区域では、ロボットテクノロジー、ユビキタス・IT・デジタルコンテンツの先端技術分野をテーマとしたナレッジ・キャピタルの整備が進み、関西の産業を牽引することが期待されている。

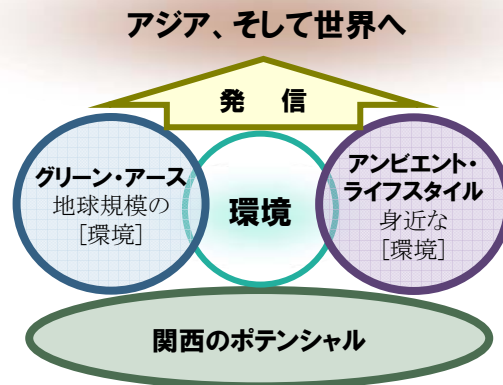
2期開発区域では、経済のグローバル化が進展する中、深刻化する地球規模での環境問題に正面から取り組むべく、「環境」を都市づくりのテーマとして設定した。「環境」を軸とすることで、ものづくりを基盤とする関西の個性とも言うべきポテンシャルを引き出すことが可能である。さらにはアジア諸国への貢献と共生、そして世界における関西の存在感の向上を図る。

世界・アジアにおける
関西・大阪の存在感の高揚

「知」の集積を活かした 関西の経済の牽引	関西の情報発信力の強化 優れた人材の確保
アジアと関西をつなぐ ゲートウェイの形成	日本固有の価値観を 関西から世界に向けて発信

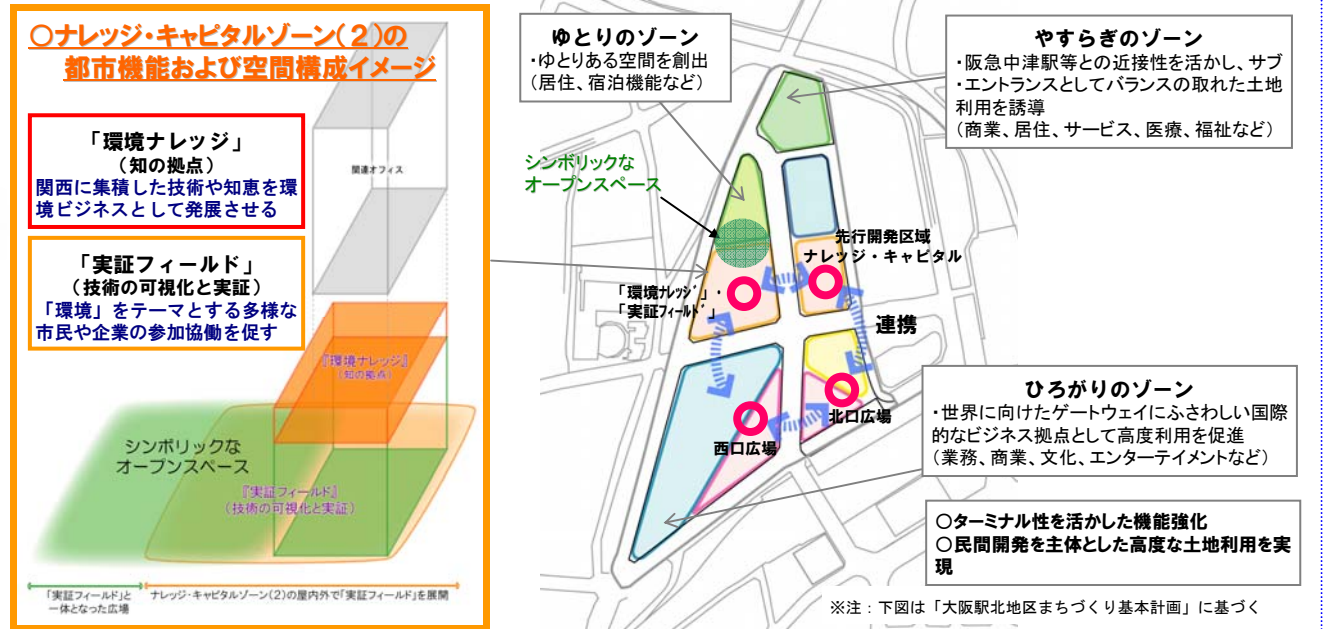
世界をリードする 「環境先進地域・関西」の都市型環境拠点

グローバルな社会・経済環境からの視点で、地球温暖化への対応など地球規模の環境問題に取り組む「グリーン・アース」と、生活の豊かさからの視点で、快適な都市環境や人と自然にやさしいライフスタイルなど人に近い環境づくりに取り組む「アンビエント・ライフスタイル」をキーワードに世界をリードする都市型環境拠点の形成を目指す。



まちづくりの基本的な考え方を実現する都市機能と都市空間

「グリーン・アース」および「アンビエント・ライフスタイル」の考え方に基づき、都市機能と都市空間が相互に関連を持ちながら、2期開発区域におけるまちづくりの4つの目標を実現するため、都市機能と都市空間の形成に取り組む。



目標と方針

国の動き

温室効果ガスの排出をはじめ、食糧不足や水不足、エネルギー需給の逼迫など地球規模の環境にかかる問題が深刻化する中で、環境をテーマとする国策が重要テーマとして展開されている。

- 「Cool Earth-エネルギー革新技術計画」(経済産業省)
- 「低炭素社会づくり行動計画」
- 「日本版グリーン・ニューディール構想(仮称)」(環境省)
- 「アジア環境人材イニシアチブ」(環境省)
- 資源高時代に対応した新成長ビジョン
「新経済成長戦略2008」(経済産業省)
- 「グリーン物流推進事業」(国土交通省、経済産業省等)
- 「CNG車普及促進モデル事業」(国土交通省) など

関西のポテンシャル

関西では経済団体を始め、企業や大学・公的研究機関、自治体など多様な主体が環境問題に対する積極的な取り組みを行っている。

- 省エネ家電にくわえ、太陽電池や燃料電池など、優れた新エネルギー技術や製品を有する企業の集積。
- (財)地球環境産業技術研究機(RITE)など環境関連の研究機関の集積。
- 大阪大学や京都大学における環境に係る人材育成や技術開発の取り組み。
- 大阪市など自治体における実績 など

大阪駅北地区の特性

- 一体的な計画が可能な「最後の一等地」。
- 西日本最大の交通ターミナル。
- 関西国際空港により東アジア経済圏へのアクセスがよい。
- 多様な都市機能(産業・経済・文化等)の集積。
- ロボット・IT、コンテンツ等を中心としたナレッジ・キャピタルによる知的集積(先行開発区域) など

基本的な考え方

世界をリードする
「環境先進地域・関西」の都市型環境拠点

グリーン・アース

アンビエント・ライフスタイル

4つの目標

グリーン・テクノロジーのイノベーション拠点

(先進的な研究開発・情報発信拠点)
関西の大学や企業、公的研究機関に蓄積した技術や人材を地域の財産として総合的に活用し、環境技術(グリーン・テクノロジー)のイノベーション拠点形成する
(環境ビジネスの創出支援)
環境技術の商品化、事業化を支援し、環境の産業化を図る

環境先進国をリードする人材の交流・育成拠点

(産官学の連携-クラスターの結節点)
優れた日本の環境技術を国際競争力として活用する環境戦略を打ち出し、環境技術による国際協力をすすめる
(人材交流・育成)
国内外で活躍する環境人材を集め、環境戦略の策定や環境技術のイノベーション、技術の事業化に必要な人材を育成する

居心地の良い、質の高い都市空間

(持続的な発展及び周辺地域との調和)
アジア・世界のゲートウェイとしてふさわしい高度な都市機能の集積を図り、経済合理性を考慮しつつ、絶えず新しい価値を生み出す。また、周辺地域と調和・連携し、「梅田」地区全体の価値を高める。
(地区の魅力高める緑・オープンスペースの創出)
大都市の中で「自然」の豊かさを感じさせる環境を備えたアンビエントな都市空間を創出する
(先進的な環境技術を備えた都市空間の形成)
先進的な環境技術を積極的に導入し、人にやさしく地球にもやさしい都市環境を形成する

自然と共生する技術や生活様式、都市空間を世界に発信する都市ブランドの創出

(都市ブランドの創出)
自然との共生など、日本らしい価値観やライフスタイルを、具体的な技術や商品、サービス、コンテンツを通して世界の人々に提案し、市民との協働により「グリーン・アース」と「アンビエント・ライフスタイル」を体現する都市型環境拠点としてのブランドの形成をめざす

方針

- ・関西に蓄積した技術や人材を知財として活用し、国際競争力のある環境技術を生むイノベーションを推進する。
- ・環境技術等の「実証」の場を提供する。
- ・環境の先端技術やサービスを一般の人にもわかりやすく展示したショーケースを整備する。
- ・環境にかかる技術やアイデア、人材のマッチングを図る場を設ける。
- ・コンサルティングサービス等により、新技術の商品化や事業化を図る仕組みを整備する。
- ・環境技術の研究開発や事業化に取り組む企業等を育成するファンドの仕組みを整備する。

- ・高い技術力を国際競争力として活かす戦略を策定する等、環境を軸とした産業政策を産学官連携で継続的に検討する。
- ・開発途上国の環境対策に協力する等、環境技術を活用した国際協力・国際貢献に取り組む。
- ・「環境」に取り組む公的研究機関や大学、企業など多様な主体が交流する場を整備する。
- ・国内外からオピニオンリーダーを招聘する等、環境をテーマとした国際交流を推進する。
- ・環境スペシャリストや産学連携コーディネーター等、環境にかかる高度な知識や技術を有する人材を育成する場を整備する。
- ・持続可能な社会のあり方を市民参加で考える環境学習のプログラムを整備する。

- ・関西の玄関口、大阪のシンボル空間として、大阪駅前にふさわしい土地の高度利用を図り、質の高い都市機能の集積を図る。
- ・既に集積している周辺地域の都市機能との相乗効果を図り、「梅田」地域全体の価値を高める。
- ・居心地の良い都市環境の創出と高度な都市機能の導入が両立するまちづくりを実現する。
- ・居心地の良い「界限」を、歩いて楽しい「通り」でつないだ人間中心のネットワークを整備する。
- ・多様な緑やオープンスペースにより、緑あふれる、ゆとりとやすらぎを感じる空間を創出し、「都市型環境拠点」のシンボルとする。
- ・その時代の最先端の新エネルギー技術や省エネルギー技術等の環境技術を地区内に導入する。
- ・導入された環境技術の仕組みや都市環境への改善効果を印象に残る形で「可視化」することで、その普及・啓発を図る。

- ・誰もが環境について楽しく遊び、学べるエンターテインメント空間として都市全体を誘導する。
- ・独自の環境認証制度の運用等により、環境にかかる優れた企業やNPOを集める。
- ・「もったいない」等、日本独自の環境共生をテーマとし、CSR(企業の社会貢献活動)や文化・芸術活動を通じて、環境に関心を持つ多様な人たちがものづくりやまちづくりに参加する場をつくる。
- ・市民とのコミュニケーションにより、大阪駅北地区のブランド形成にむけた評価を継続的に行う。